

43歳の壁

Yamahaaan

植村直己、長谷川恒男、河野兵市、山口けい、星野道夫(敬称略)亡くなったのは43歳。登山家、冒険家の世界には「43歳の壁」が存在するらしい。先日、K2未踏の西壁に挑んだ登山家たちが滑落した際にも囁かれた言葉だ。

豊富な経験の蓄積に基づいた豊かな想像力に肉体がついてこれなくなる頃、さらには、自らの肉体の衰えを自覚した上での焦燥感から、死につながる事故が起こりやすい歳、これが43歳にあたるらしい。(グラフ参照)

もう少し詳しく話すと、40代までの豊富な経験から色々なことが予測できるようになるので、“オレにはなんでもできる、あの状況になっても対応できるし、この状況になっても死にはしないだろう”という万能感が現れる。さらにその経験値は、若い頃には考えられなかった、自分だけの壮大な計画を想像させる。ところがその一方、肉体は衰え始めている。しかもその生命力としてのパワーが下降線をたどり始めていることは自覚できる。

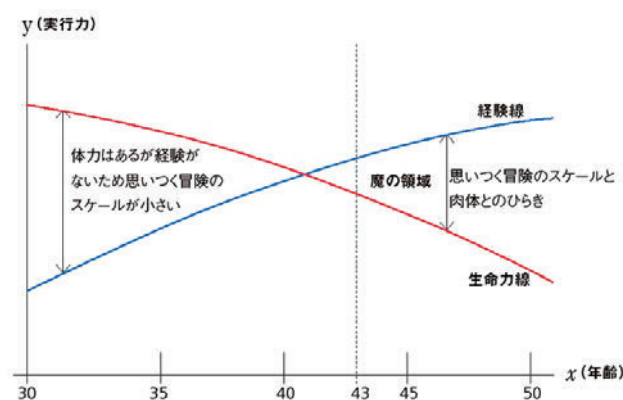
その結果として、“まだ体が動く今のうちに、自分だけが思いついたこの計画を実行しなければならない、今やらねば死ぬとき必ず後悔するだろう”といった焦りが生まれ、行動に無理が生じる。これが登山家、冒険家にとっては死につながるのだ。

厳密に統計があるわけではないが、多くの著名な登山家や探検家が43歳で亡くなっていることや、一般的にも42歳が厄年とされている事実は、偶然か必然か…。

そこまで過激なことに挑まない我々にとっての「43歳」は死に直結するほどに高い壁ではないかもしれないが、歳と比例して拡大する人生経験によって顔を出す万能感で足元をすくわれぬよう、くれぐれもお気をつけあそばせ。ちなみに62歳の私の生命力線はどこ？



世界で2番目に高い山 K2



角幡唯介『裸の大地 第一部 狩りと漂泊』(集英社)より